

Qなぜ、まちづくりチャレンジ事業に挑戦しましたか？

子どもを中心とした地域の方と私たち高校生の交流の場を増やし、横田地域を盛り上げたいと思い挑戦しました。

Qどのような活動をされましたか？

10月には小学生を対象としたハロウィンパーティーを横田公民館で開催しました。このパーティーは、小学生を対象とした活動の初回だったため、参加してくれた小学生と私たちの距離を近づけることを目標とし、紙粘土や鬼ごっこ、小学生が教えてくれた遊びをしたりしました。

12月にはクリスマスパーティーを開催しました。これまでの活動の中で、子どもたちが「フッキングをしたい！」と言っ

ていたので、クリスマスパーティーでフッキーやツリーの飾りを作りました。

Qパーティーを開催する上で難しかった点や工夫した点を教えてください。

限られた時間の中で子どもたちが十分に楽しめる時間配分や内容を定める事に苦労しました。普段、時間がないからと大人の都合に合わせてしまいがちですが、このパーティーでは、子どもたちが主体となるよう心掛けました。

Qパーティーを開催してみて、どのような感想を持ちましたか？

ハロウィンパーティーでは、様々な地区から参加していただきました。初対面でも積極的に仲良く遊ぶ様子を見て心がほっこりしました。クリスマスパーティーでは、親子で参

加して下さった方がおられ、お母さんがお子さんと一緒に工作を楽しんだり、自宅ではやらないというフッキー作りをしている姿を見て親子の絆を感じました。

Qこのような地域活動を通して、学んだことは何ですか？

一から企画し、計画を立てて活動を行うことは、とても難しく、思い通りにいかないことが多くありました。しかし、やっていくうちに地域の方が声を掛けて協力してくださることもあり、挑戦してみてもよかったです。イベント開催にあたり、行き詰まり、計画を遅らせようかと悩んだこともありましたが、まずはやってみることが最初の一步に近づくと学びました。この貴重な体験を今後の人生において活かしていきたいです。



LINKと参加者の皆さん

参加者と作ったフッキー

手作りした飾りを飾ったツリー

Qなぜ、まちづくりチャレンジ事業に挑戦しましたか？

「作る事、食べる事」が大好きな私は、地域の皆さんを笑顔にしたいと思い、食堂を開きました。

Qランチボックスのメニューは、どのようなところにこだわりましたか？

卵とハムのロールパンサンド、コロツケ、サラダ、ポロネーゼ等、小さい子からお年寄りまでおいしく食べられるメニューを考えました。

Q調理をしてみた感想を教えてください。

誰が何を作るか担当を決めて事前準備をしていたのですが、当日、お客さんが

待っている中で、「コロッケを揚げて、ロールパンに具を挟んで、お弁当に詰めて提供するが大変でした。特に、コロッケを揚げ過ぎないようにする事は苦労しました。

Q初めてのレジ体験はいかがでしたか？

お客さんから注文数を聞いて、電卓で計算をするのですが、初めはやり方がわからず難しかったです。大人に助けてもらって次第に出来るようになりました。

Q食堂を開いてみた感想を教えてください。

想像以上にお客さんが来て、緊張しましたが、お客さんから笑顔で「おいしかったよ。ありがとう。」と言ってもらえて嬉しかったです。

Q今後はどのような事をしてみたいですか？

メニューを増やしたり、他の地域でも活動をし、レベルアップしたいです。そして、私たちの料理で、もっともったくさんの人を笑顔にしたいです。



レジ打ちの様子



80食限定 ニコニコボックス



三沢小ラボ☆の皆さん

フォーカス

「奥出雲町未来に輝け！まちづくりチャレンジ事業」の活動をズ紹介

町では、未来に輝く子どもたちの主体的なまちづくりへのチャレンジを応援するため、令和5年度に新たに「奥出雲町未来に輝け！まちづくりチャレンジ事業」を創設しました。7月8日に役場仁多庁舎で選考会が行われ、教育やまちづくりに携わる5名の選考委員が、各団体からプレゼンテーションと質疑により審査を行いました。その結果、横田高校生で構成される「地域活動FUN!CLUB」と「LINK」、三沢小学生で構成される「三沢小ラボ☆」の3団体が採択され、それぞれ地域活動を実施されました。今回は、皆さんが実施した地域活動について、ご紹介いたします。

Qなぜ、まちづくりチャレンジ事業に挑戦しましたか？

私たち高校生が、子どもと大人の間に入り、2つの世代を繋ぐ役目を果たしたいと思ひ、この事業に挑戦しました。

Qどのような活動をされましたか？

馬木地区で開催される「あおぞら市」に高校生SHOPとして出店しています。出店地域の課題やイベントのコンセプトに合わせた店づくりを意識し、季節に合わせた商品の販売やイベントの企画をしています。

Q11月4日に開催された「あおぞら市」に、出店するために工夫をした点はありますか？

子ども向けのピンポンゲームを用意しました。小さなボールを投げて、紙コッ

プに入れるゲームです。子ども向けで用意したのですが、大人の方にも楽しんでいただきました。そのほか、手作りお菓子を販売しました。その時期に旬なものを使ってスイーツを製作していて、今回は、柿のソースをかけたパンナコッタとスイートポテトにしました。

Q「手作り」という事ですが、皆さんで作っていますか？

はい。みんなお菓子作りが好きなので、横田にある婦人の家を借りて試作してから販売をしています。

Qこのような地域活動を行って、どのような感想をお持ちですか？

県外から来ている寮生を中心に、地元の人と一緒に活動をしています。出身の地元では、地域活動をする機会があり

ませんでした。奥出雲町で地域活動を行い、口頃、接点のない世代の方々と繋がりを持てるのが想像以上に面白いと感じています。

Q地域活動を通して学んだことは何ですか？

色々な世代の方と話すことで、自分から話し掛けるようになりましたし、地域について知る絶好の機会となりました。

ピンポンゲームをする様子



地域活動FUN!CLUBの皆さん

手作りスイートポテト



んのチャレンジやそれを見守り、支える町民の皆様が新しい奥出雲町を創っていくと私は確信しています。

教育の面でも、「世代を超えて互いに協力していく、気づく、求められる、ほめる、楽しんでやる、応援する」といった一つ一つのこと

が大事であると改めてこの事業により、確信したところです。今後とも、奥出雲町の地域の皆様とのかかわりの中で、こうした若い皆さんのチャレンジが継続していきますようお願いするとともに、町民の皆様の一層のご協力をお願いいたします。

奥出雲町長 糸原 保



今年度の新規事業として始まった「奥出雲町未来に輝け、まちづくりチャレンジ事業」は3件の事業が採択され、小学生、高校生の皆さんが地域のために、一生懸命考え、準備し、実施してくれました。また、保護者の皆様や地域の皆様が温かく支えてくださいました。事業に携わっていただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

私は、審査会の様子を拝見していましたが、小学生の皆さんが「どうしたら地域の皆さんに喜んでもらえるのか？」と過去の経験からメニューを考え、審査員の皆さんにプレゼンし、難しい質問にも真剣に答えている姿に感動したところです。横田高校の皆さんも、町内や町外出身の生徒